妙泉寺便り

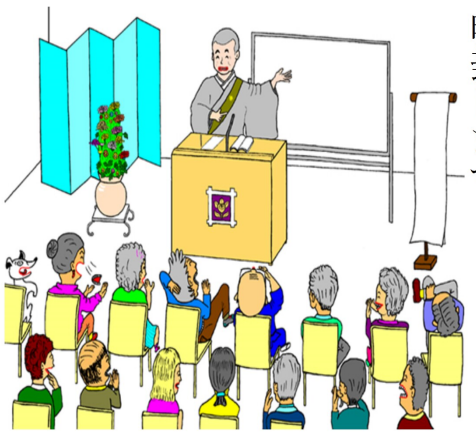
第６号
発行所：本覚山妙泉寺
岡山市南区古新田633
TEL：086-282-0001
編集：妙泉寺副住職

春のお彼岸特集

春のお彼岸が近付いて参りました。お彼岸はインドにもない日本独特の行事です。

本年の春は三月二十一日の「春分の日」を中日とし、その前三日間と後三日の一週間を「彼岸」と呼びます。

彼岸中は、私たちが住む迷い多き娑婆世界（此岸）から、安穏な世界（彼岸）へと渡るために**「六波羅蜜（ろくはらみつ）」**と呼ばれる六つの修行の期間です。今回は、その六つの修行法をご説明致します。



①布施（ふせ）

今でこそ、私達僧侶に対するお礼の意味で使われている言葉ですが、本来の「布施」とは主に三種類あります。

財産や品物などを施す**「財施（ざいせ）」**。

お釈迦様の教えを説く**「法施（ほうせ）」**。

今回書きましたこのお話も「法施」に当たります。

余談ですが、お寺で執り行うご先祖様の追善供養は「財施」と「法施」の両方を持っています。

また「布施」には「頂戴しまして有難うございます。」「こちらこそ施させて頂き、有難うございます。」という「してあげる」ではなく「させて頂く」という清らかな心が必要になります。「してやる、させてやる」では布施とは言えません。

三つ目が**「無畏施（むいせ）」**。

これは目には見えない物を相手にほどこす。経済的に苦しい人でも、身体を使って労力をほどこす。相手の不安を取り除き、安心感を与える。いたわりの言葉を掛けたり、笑顔で挨拶をしたりは誰にでも出来ることです。

皆様の周りにも自分と合わない人は必ずいます。そんな相手であっても笑顔で挨拶を続けていれば、実はそれ程いやな人でもないのかもしれませんね。

他にも、皆がやりたがらない面倒な仕事も「自分がやります。」と進んで引き受ける、これも立派な「布施」になります。

②持戒（じかい）

戒律を守ること。私たちの心の中には「良い心」と「悪い心」があります。

「ちょっとくらいなら・・・。今日はこのくらいでいいだろう・・・。みんなやっている事だし・・・。」と悪い心に支配された時、「ちょっと待て」と自分自身で「悪い心」にブレーキを掛ける。「自分に厳しく、他人に優しく」がこの「持戒」です。

③忍辱（にんにく）

決して食べ物のニンニクではありません！

どこの世界にも、自分と合わない人は必ずいますし、嫌味を言う人もいます。そんな時でもグッと堪えることが必要です。ただしこれは「我慢」ではなく「忍耐」の修行です。

「忍耐」とは、目標の為に多少の困難には立ち向かう勇気を持つことです。それに対して「我慢」とは「何で私ばかり耐えなきゃいけないのだ。何で自分ばかりが。」という、読んで字の如く「我の慢心」です。でも本当にそうでしょうか。確かに自分が辛い時ほど周りは楽をしているように見えるかもしれませんが「耐えているのは自分だけではない。皆それぞれ辛いけど、辛さを隠して頑張っているのだ。」と気付いた時に本当の「忍辱」の修行が始まるのです。

④精進（しょうじん）

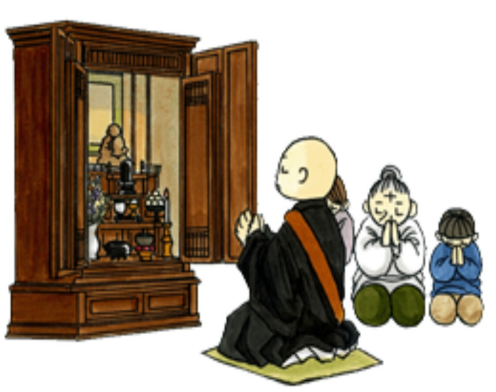
良い結果が得られたとしても、常に上を目指して努力する。人一倍頑張っていれば、おのずと周りは評価しますし、時には邪魔をする人も出て来ますが、それらは全て自分を試す幻覚に過ぎません。それでも努力を続けていれば、邪魔をしていた人でさえも味方になるでしょう。

⑤禅定（ぜんじょう）

精進の修行にも出て来ましたが「邪魔をする幻覚」が現れた時でも、気にせず落ち着いた心で、今自分がすべき事を行っていく。どんな時でも動揺せずに落ち着いた心を持つ修行。

⑥智慧（ちえ）

①～⑤までの修行法を全て使いこなし、更には「何が正しく、何が間違っているか」を常に見極め、どんな時でも「感謝の心・反省の心」を忘れないこと。学問的な「知恵」ではなく、私たちが生きていく上で大切なものを見極めるのが「智慧」の修行です。



以上が、お彼岸で行う「六波羅蜜」です。

「お彼岸とはいつでしょうか？」といった質問を受けることがありますが、一年中お彼岸ではないでしょうか？

※彼岸経を希望される方は当山までご連絡下さい。住職もしくは副住職が参ります。

りっきょうかいしゅうえ

立教開宗会

四月二十八日(月)
十三時半より法要
十四時より
水子供養祭
終了後婦人部総会

建長五年（一二五三）四月二十八日、一人の青年僧が安房国（現在の千葉県小湊）の清澄山、旭が森に立ち、今しも太平洋上から昇り来る日輪に向かって「南無妙法蓮華経」と声高らかに唱え始めました。青年僧とは、私たちの宗祖・日蓮聖人です。御年三十二歳でした。私たち日蓮宗はこの日をもって立教開宗の聖日としています。

聖人の立教開宗にちなみ、法要を行う日蓮宗寺院も多く見られます。

そして当山でも聖人のご遺徳を讃える法要を営みます。

また、本年は午年です。日蓮聖人がお生まれになった貞応元年（一二二二）も午年で、更に亡くなられた弘安五年（一二八二）も午年です。

本年年男・年女の方々は是非とも、そしてそれ以外の方々ももちろん当山までお参りし、日蓮聖人のご遺徳に想いを馳せてはいかがでしょうか？

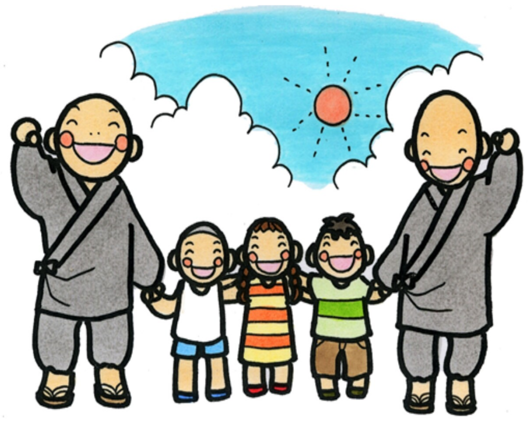
少年少女の集い

三月二十七(木)～二十八(金)

当山副住職が所属しております**「日蓮宗岡山立正青年会」**主催により**「春休み少年少女の集い」**が、本年は岡山市北区芳賀の顕本寺様を会場に開催されることになりました。

青年会の若い僧侶と一緒に読経練習や、岡山ドームにおいて球技大会。更に翌日は、**大阪のスパワールド**へ行く充実した内容となっております。

「是非、うちの子・孫を参加させたい。詳細を知りたい」と思われる方は、当山までご連絡下さい。



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆「日本人の九割が間違える日本語」☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

私たちが普段、何気なく話している日本語には日本人の約九割が勘違いして使っている言葉がたくさんあります。

今回はその内の三つを紹介致します。

①姑息（こそく）

「姑息」と聞くと皆様、どのような意味だと思うでしょうか？

「あの人は私のアイデアを盗んだんです、全く姑息な人ですよね。」等というように「やり方が汚い、卑怯な」という使い方をしている方が多いですが、実は「姑息」の本来の意味は**「その場限りの、間に合わせの」**という意味です。ですから正しく使うと「ズボンがほつれたので、姑息な方法だがホッチキスで留めた。」というような使い方が正しいのです。

②敷居が高い（しきいがたかい）

「敷居が高い」と言いますと「あのフランス料理店は私には敷居が高いなあ。」「お寺は敷居が高い。」というように「上品すぎて行きにくい、高級感があって入りにくい」という使い方をしている方が多いですが、これも間違った使い方です。

「敷居が高い」の本来の意味は**「不義理なことや、迷惑ばかりかけてしまい、相手の家に行きにくくなること」**です。

正しく使う場合は「実家に何年も帰っていないので敷居が高い。」「山田さんには借金をしているので、山田さん宅は敷居が高い。」というように使います。

ちなみに「高級感があり、行きにくい」という意味の熟語は**「格式が高い」**です。

③破天荒（はてんこう）

文字のイメージから「豪快」や「波乱万丈」「無鉄砲」という意味と勘違いしている方が多いですが、本来は全く異なります。

中国の唐の時代、荊州（けいしゅう）から科挙（かきょ）【現代の公務員試験】に合格した者は一人もいませんでした。また荊州は「天荒」と呼ばれており、天荒とは本来「未開の地」もしくは「凶作などで作物が育たず、雑草の生い茂る地」を言います。

そんなある日、劉蛻（りゅうぜい）という人物が荊州から初めて科挙に合格し、「天荒を破ったぞ！」と、人々は大いに歓喜しました。

このことから「破天荒」とは**「今まで誰も成し得なかった偉業を成し遂げる」**という意味になったのです。

旧説には、天地未開の混沌とした状態（天荒）を破り開く意味もあります。

私たちの宗祖・日蓮聖人も破天荒ですね。

編集後記

最近、子供が小さいうちから英会話を習わせる親が増加しております。英語を否定するつもりはありませんが、「もっと他に教えるべきものがあるのではないだろうか。」と疑問に感じております。

最近の若い方々が話す言葉を耳にすると「何だか変だな」と感じます。

今回「日本人の九割が間違える日本語」についても記しましたが、日本人として生まれた以上、母国の言葉をもっと大切にし、子供たちに伝えていくべきではないでしょうか。

日蓮宗のゆるキャラ「こぞうくん」